

YAMAGATA CITY TOPICS



▲長崎市で被爆者取材の様子



文化財の魅力発信を強化

市では3人目の「地域おこし協力隊」に、伊藤なつみさんが就任しました。伊藤さんは、千葉県出身。芸術大学で培った経験や学芸員の資格を生かせると思ひ、文化財保存活用地域おこし協力隊に応募したとのこと。

東北の自然豊かな環境に憧れ、山形市で活動できることに喜びの表情を見せていました。これから、郷土館を中心に山形市に残された貴重な文化財の魅力発信していきます。

霞城公園さらなるにぎわいへ

4月8日から霞城観桜会が行われました。霞城公園のライトアップや4月13日・14日に開催された山めん寒ざらしそば賞味会や風流花見流しなど、春の訪れを感じようと、多くの家族連れや観光客でにぎわいました。

4月14日に行われた山形城VRツアーでは、江戸時代中期の山形城を再現したVR・ARを体験してもらいました。霞城公園内のスポットに行き、専用アプリを利用することで誰でも体験できますので、ぜひご来園ください。

次世代の平和の担い手に

核兵器廃絶を訴える日本非核宣言自治体協議会が主催する「親子記者事業」に東北ブロック代表として参加した土橋怜生さんと明晃さんが、3月25日に長崎市での活動を市長に報告しました。被爆者への取材やフィールドワーク

を通して、「原爆の悲惨さを改めて感じた。同世代にも平和の尊さを伝えていきたい」と語った怜生さん。作成した記事は非核宣言自治体協議会ホームページをご覧ください。年度の事業募集はP.17へ。



クローズアップ

Close-up

令和5年度親子記者事業 東北ブロック代表

つちはし
れい
い
土橋 怜生さん



「偶然が重なって
生かされた命」を
大切にしたい



▲原爆落下中心地

山形市は、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて活動する日本非核宣言自治体協議会に加盟しています。今回は、同協議会が次世代の平和の担い手育成を目的に実施している「親子記者事業」に、昨年度東北ブロック代表として参加した土橋さんから、長崎での取材を通して感じた平和に対する思いを聞きました。

一人一人に夢や希望があり、直前までは普通の生活があったことを思うと胸が締め付けられました」取材で特に印象に残っているのが被爆者の「自分はたまたま助かった。偶然が重なって生かされた」という言葉だそうです。

「もし、原爆落下地があと数百メートル違っていたら、曾祖母は亡くなっていて僕は生まれてなかったかもしれない。この『偶然が重なって生かされた命』を大切にしていきたいと強く思いました」

土橋さんは、被爆4世。父明晃さんの祖母が長崎市で被爆しています。長崎市を訪れた際に、長崎原爆資料館を見学したり、被爆遺構を見たりしたことで原爆の悲惨さを実感し、原爆について関心を持ったという土橋さん。戦争被害の少なかった山形市にいと過去に日本で起きた戦争について触れる機会はほとんどありませんでした。原爆投下から78年が経ち、被爆者が高齢化している中で被爆当時のことを直接聞くことができる機会は最後かもしれない、との思いで参加したといいます。

こう語った土橋さんは、取材を通して感じたことを学校でクラスのみんなに伝えていきます。

「『全然知らない』と『少し知っている』は違う。教科書に載っている内容を覚えるだけでなく、少しでも関心をもって原爆について考えてほしい。そのために、これからも周りの友達に原爆の話を伝えていきたいです」

と次世代の平和の担い手としての意気込みを話してくれました。

「原爆落下中心地では、約3千度の熱や放射線によって、一瞬にして多くの尊い命とそこでの人々の暮らしが奪われてしまいました。現在は慰霊碑が建っていますが、被爆した

土橋さんが作成した「おやこ新聞」は日本非核宣言自治体協議会ホームページをご覧ください。

広報やまがた7月15日号では、平和に関する特集を掲載します。併せてご覧ください。





(長崎原爆資料館所蔵 寄贈者：久保忠八)

被爆前の家族写真▶

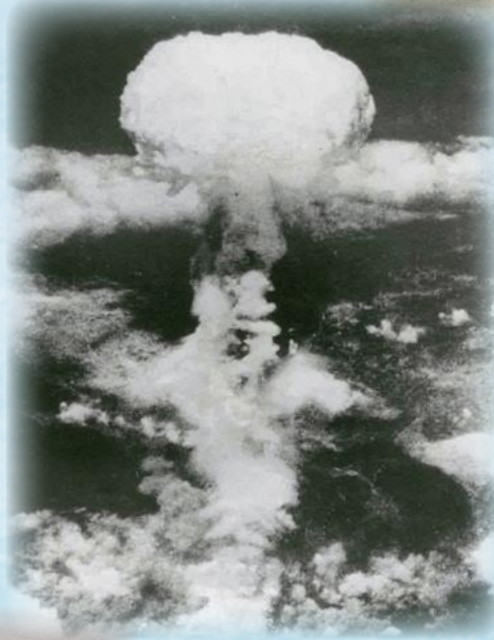
約80～90年前の家族写真。
女の子が着ているワンピースは、現在のものとほとんど変わらない。



(長崎原爆資料館所蔵 寄贈者：水町嘉宏)

◀11時2分を指したまま止まってしまった柱時計

爆心地から約800メートルの民家にあったもの。原爆の爆風によって壊れてしまった。



(長崎原爆資料館所蔵 撮影：米軍)

1945.8.9 11:02

語り継ごう 平和の尊さを

問 広報課 ☎内線244

8月15日、79回目の終戦記念日を迎えます。戦争で多くの尊い命が犠牲になったことを決して忘れてはなりません。悲劇を二度と繰り返さないために、戦争の悲惨さを後世に語り継いでいくことは、現在を生きる私たちの使命です。山形市は、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向けて活動する日本非核宣言自治体協議会に加盟しています。今号では、同協議会が次世代の平和の担い手育成を目的に実施している「親子記者事業」に昨年度、東北ブロック代表として参加した土橋怜生さん・明晃さんが、被爆地長崎を取材して感じた平和への思いをご紹介します。



(長崎原爆資料館所蔵 撮影：米軍)

▲B29爆撃機から見たきのご雲

長崎に投下された原子爆弾は地上約500メートルでさく裂。火球はきのご状の雲となって膨らみながら上昇し、巨大化していった。
爆発から0.3～3秒の間に地上の表面温度は3,000～4,000度に（鉄が溶ける温度は、約1,500度）。

◀爆心地から約800メートルの地点から見た焼け跡

爆心地から半径500メートル圏内は、ほとんどの人や家畜が即死。
半径1キロメートル圏内の木造建ての民家は、原形が全く分からなくなっていた。



土橋怜生さん

想像してみてください。
一瞬にしてたくさんの命が、街並みが、これまで積み重ねてきた街の文化が奪われてしまうことを。
もし、その中で自分だけが生き残ったら。

取材した長崎原爆資料館では、一発で街を一変させてしまう原爆の恐ろしさを感じました。原爆が投下されるまでは、確かにそこに今の私たちと同じような日常がありました。原爆は、一瞬でたくさんの命を奪っただけでなく、生き残った人々のその後の夢や希望までも奪ってしまいました。生き残った人々は、全てを奪われた悲しみや絶望だけでなく、放射能による被害や差別・偏見により過酷な人生を歩むことになってしまったことも、忘れてはいけないと思いました。



▲親子記者事業で取材中の土橋親子

広報やまがた7月1日号
クローズアップに土橋さんのインタビューを掲載しています。併せてご覧ください。



平和公園 平和の泉

のどが渴いてたまりませんでした
 水にはあぶらのようなものが
 一面に浮いていました
 どうしても水が欲しくて
 どうとうあぶらの浮いたまま飲みました
 —ある日のある少女の手記から

原爆により体の中まで焼けただれた被爆者たちは「水を、水を」とうめき叫びながら亡くなっていきました。その痛ましい霊に水を捧げ、冥福を祈り、世界の恒久平和を祈念して「平和の泉」がつけられました。



平和の泉の噴水は、平和の象徴ハトの羽ばたきの形になっています。
 太陽が出ると虹が架かり、キラキラ輝く様子は現在の平和を象徴しているように見えます。



(長崎原爆資料館所蔵 撮影者：小川虎彦)



(長崎原爆資料館所蔵 撮影：米軍)

旧城山国民学校（現在の城山小学校）

◀被爆前の城山国民学校（左）と被爆後の城山国民学校（右）

城山国民学校は、最も爆心地に近い国民学校でした。鉄筋コンクリート3階建ての校舎は、原爆により大きく破壊され、火災により2・3階は全焼しました。

国民学校には教職員33人がいましたが、うち29人が亡くなりました。校庭で作業をしていた人の中には、顔のかたちも判別できない姿で爆死した方も多かったといえます。この学校に通っていた約1,500人の児童・生徒のうち、1,400人余りが自宅や校区内で亡くなったと推定されています。



◀山王神社の大クスノキ
 被爆樹木。今では平和や再生のシンボルとなっている。

城山小学校の敷地内には、被爆して燃えてしまったにもかかわらず、新芽を出し大きく伸びた力強いクスノキ（通称：双子グス）があります。一面焼け野原になり、壊滅的な被害を受けたことで、「長い間、草木も育たない」と考えられていた状況の中で、芽吹いた草木は当時の人々を強く勇気づけました。この双子グスの姿は、困難な中で復興を遂げた長崎の人々の姿と重なり、生命のエネルギーを感じさせてくれました。

▼山王神社の二の鳥居

爆心地から約800メートルにあり、爆風で鳥居の片方が壊れ、向きがずれたにもかかわらず今もなお立ち続けている。



広島で被爆したピアノが山形に

広島に投下された原爆の熱線や爆風に耐えた「被爆ピアノ」の音色を聴いてみませんか？被爆2世で広島市在住の矢川光則さんは、「被爆ピアノ」を譲り受け、修復しました。そして、平和の大切さを訴えるため、全国各地で平和コンサートを開催しています。

被爆ピアノランチタイムコンサート

時 10月4日（金）正午～
 所 市役所1階市民ホール



被爆ピアノトワイライトジャズコンサート “平和のセッション”

時 10月12日（土）午後5時～ 所 霞城セントラル24階展望ロビー

被爆ピアノの演奏者・演奏団体を募集します

被爆ピアノ平和コンサートinYAMAGATA2024 “平和の祈り”

時 10月5日（土）午後2時～ 所 中央公民館ホール
 対 ソロまたは連弾によるピアノ演奏、独唱・重唱・合唱、器楽合奏団体20組程度（抽選）

※申 8月15日（必着）までに、二次元コードからメールで、または市役所や各公民館・コミュニティセンターに設置の応募用紙に記入の上、FAX（FAX 641-2535）で被爆ピアノ平和コンサート実行委員会へ



山形市の平和のシンボル **千年和鐘**

21世紀の幕開けの際に、過去千年間の先人たちと貴重な変わり目の時代を生きている私たちの平和への思いを、これからの千年間に伝えていきたい、と作られました。900年以上の歴史を持つ山形鑄物で作られ、その火種は、1200年間山形を照らし続けた山寺根本中堂のともしびと蔵王の熊野岳で太陽の光を集めて採火した太陽の火を合わせて作られました。

市では、核兵器廃絶と平和を祈念し、毎年千年和鐘打鐘式を行っています。ぜひ、ご参加ください。

時	8月6日(火)	午前11時55分～
時	8月9日(金)	午前10時55分～
時	8月15日(木)	午前11時50分～

所 市役所東側千年和鐘前

